

分科会設置提起相次ぐ

衆院憲法審が自由討議

衆院憲法審査会は16日、岸田文雄政権の発足後初の自由討議を開いた。自民党の新藤義孝与党筆頭幹事は9条への自衛隊明記や緊急事態条項など同党が掲げる4項目を踏まえて議論を呼びかけた。立憲民主党の奥野



衆院憲法審査会の自由討議に臨む（左から）奥野氏、審査会の森英介会長、新藤氏（16日）

総一郎野党筆頭幹事は「4項目ありきの議論に反対だ」と主張した。自由討議は5月以来で憲法改正の方向性、改憲の手續きを定める国民投票法の改正などを議論した。新藤氏は「多岐にわたる論点を整理して国民に提示するのは国会の責任で、審査会を安定的に開いて憲法議論を一層深めたい」と訴えた。

憲法改正巡り

「雰囲気変化」

自民幹事長

議論の仕組みを巡る意見が相次いだ。公明党の国重徹氏は「詳細を詰めるには所属議員が多い」と指摘した。会長や幹事会のもとに設けた検討委員会で論点を整理、深掘りし、審査会で議論をまとめる方法などを例示した。

奥野氏は通常国会で成立した改正国民投票法のさらなる改正をまず話し合っべきだという見解を提示した。CM規制などの議論を働きかけた。

国民民主党の玉木雄一郎代表は分科会方式の導入を提唱した。「自由討議も意味はある。議員の意見発表会で終わらせないために検討すべきだ」と訴えた。

自民党の茂木敏充幹事長は16日収録のBSテレ東「NIKKEI 日曜サロン」で、憲法改正に向けた与野党の動きを巡り「かなり雰囲気は変わってきている」と語った。同日の衆院憲法審査会について立憲民主党が開催に賛同した点などを指摘した。